

## 鉄道電気設備保守管理システム REFMa（レフマ） 他鉄道事業者での初導入

～東京メトロでの運用実績を踏まえ、他社での運用を開始～

東京地下鉄株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役社長：小坂 彰洋、以下「東京メトロ」）は、鉄道電気設備保守管理システム「REFMa（Railway Electrical Facilities Maintenance Management System）」について、当社での導入効果と運用実績が評価され、このたび首都圏新都市鉄道株式会社および東葉高速鉄道株式会社に初めて導入、2026年4月より運用を開始しました。

当社では中期経営計画「Run!～次代を翔けろ～」の事業戦略である「鉄道運営ノウハウを活用した事業領域の拡大」における「DXによる業務支援」を推し進めておりますが、REFMaは、鉄道電気設備保守管理業務を支援するプラットフォームです。

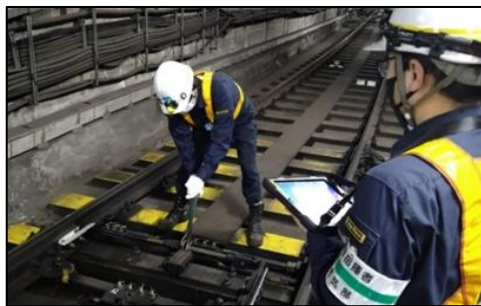
本件は、東京メトロが自社で培った鉄道電気設備保守管理業務に関するDXの成果を社外に展開する初の事例となります。

従来は紙ベースでの検査管理だったものが、REFMaの導入により、計画・検査・実績のデジタル化と一元管理による業務の標準化・効率化を実現し、ヒューマンエラーによる作業漏れなどの未然防止や業務のペーパーレス化に寄与しています。

東京メトロでは、2023年4月より段階的にREFMaを導入し、現在では鉄道電気設備の保守管理業務を担う全職場で運用していますが、導入以降、電気部社員からのフィードバックを継続的に取り入れ、実態に即した形でシステムの機能改善を行うなど、運用方法の見直しを進めてきました。これに加え、業務効率化に関する知見及び紙帳票からデータ管理への移行に関するノウハウを蓄積してきました。これらの取り組みが評価され、他鉄道事業者での導入となりました。

東京メトロは、今回の導入を契機に、これまで培ってきた鉄道技術や知見を活用し、REFMaを通じて鉄道運営のノウハウを活用した事業領域の拡大を図ることで、鉄道業界全体の保守業務DXと鉄道インフラの維持・サービス向上に貢献してまいります。

※REFMaの詳細につきましてはurlをご参照ください：[REFMa - 東京メトログループの技術 Tech-Solutions](#)



（現場設備点検作業風景）

### REFMa導入前（紙管理）

- ・作業漏れ等の確認作業負担大
- ・検査計画等の管理が煩雑、属人化
- ・手作業による作業時間増大
- ・出社しないと作業ができない



現場



本社他

### REFMa導入後

- ・通知機能等で作業漏れ等を未然防止
- ・情報の一元管理、業務の標準化
- ・検査計画自動作成による業務効率化
- ・場所を選ばずテレワークに対応



現場



本社他

（本システム導入後の効果）